



瀬戸内下身を清め神殿に入る

今治市 大三島 瀬戸内の潮垢離

大見神楽の神楽殿「大見八幡太神社」の眼下には美しい瀬戸内海が広がっている。神楽が行われる日の早朝、舞太夫たちは海岸に集まり、神楽の悪魔祓いで使用する太刀を海水で清めてからこの階段を上がり、神殿入りする。大見神楽は伊勢から大山祇神社に伝わり、明日、そして大見へ伝えられたと言われている。五穀豊穡や家内安全を祈って、毎年新春を祝福して奉納されている小神楽と、昭和 12 年まで 10 年に 1 度奉納されていた大神楽がある。こうして現在に至る大見神楽はおよそ 450 年もの歴史を誇り、県の無形民俗文化財にも指定されている。大見神楽は、集落で 1 番大きな行事として大切にされている。人から人へ。今日もその伝統が受け継がれていく。